



神と悪魔－言葉の話

校長 三村 孝志

ボクシングのWBA世界バンタム級チャンピオン井上尚弥選手がWBS S (ワールド・ボクシング・スーパー・シリーズ) の準決勝で、IBF世界バンタム級チャンピオンエマヌエル・ロドリゲス (プエルトリコ) に2回TKOで勝利しました。団体が多くなってしまったので、世界チャンピオンはたくさんいます。しかし、さすがに互いに世界チャンピオン同士だけあって見応えのある試合でした。井上尚弥選手の強さを知りました。見事な勝利でした。日本の世界チャンピオンで、全盛期に大変な強さを誇った選手に長谷川穂積選手がいます。バンタム級、スーパーバンタム級、フェザー級のタイトルを獲得しました。ウィラポン・ナコンルアンプロモーションとの2度目の対戦で、右フック1発でKO勝利しました。ウィラポンはムエタイ出身でWBC世界バンタム級王座を14度防衛した名チャンピオンです。

英語実況では長谷川選手のKOした右フックを「beautiful right hook」と言っていました。芸術的であるだけではなく、神技としか言いようのないすばらしいパンチでした。このようなことは滅多にあることではありません。

ですが、最近、日本には神が増えたようです。「神対応」や「神曲」(「しんきょく」と読むならば、ダンテの作品です。「かみきょく」と読むのでしょうか)、少し前の「神7」(AKB48)や乃木坂46の「十四福神」など、神とつく言葉を目にすることが多くなりました。ほかにも、神アプリ、神スイング、神ゲーム、神マンガなどがあります。「神対応」は、神様のような対応ということでしょう。SNS上で、相手の対応のすばらしさをほめるときに使うようです。「神様のような対応」と打つより「神対応」と打つ方が効率的ですから、そのような言葉になったのかもしれませんが。企業のクレーム対応が驚くほど素晴らしいときに用いられるという説もあるようです。当然、最大級の好評価を表す言葉です。しかし、神〇〇という表現が様々な場面で用いられると、神〇〇という言葉聞いても、何だろうと興味を感じることもなくなり、そのすばらしさも伝わらなくなります。「神対応」を検索してみると、「神対応ってよく聞くけど神様乱用されすぎじゃない」「神様が大安売りされているみたい」「気軽に使われすぎ」「使われすぎて最近イラッとする」「聞き飽きた」と思っている人が少なくないことがわかります(「乱用」は「濫用」と表記すべきでしょう)。

私たちが普段感じている思いをうまく表現した言葉だったから、流行したのでしょうか。しかし、たいしたことではないのに「神対応」と使うと、ほめる意味で用いていることや滅多にないという意味が伝わりにくくなってしまいます。よく考えず、神〇〇と使うことは避けた方が賢明かもしれません。

「神」がいるのであれば、「悪魔」もいます。コンビニで「悪魔のおにぎり」という名称のおにぎりが売られています。体重増加が気になるから、食べてはいけないと思いつつ、とてもおいしいので、誘惑に負けてつい食べてしまうというおいしさがあるおにぎりという意味があると思われます。説明すると長いのですが、それを「悪魔のおにぎり」と名づけたわけです。

悪魔はささやくのです。「おいしいぞ。禁欲なんて馬鹿らしい。一時の快楽を大切にせよ」と。おにぎりを食べるか、食べないかという身近な問題に「悪魔」という言葉を用いることのおもしろさを感じられます。このおにぎりは、「天かす」「青のり」「天つゆ」入りの混ぜご飯のおにぎりです。「青のり」ではなく「ねぎ」の場合もあります。諸説あるようですが、天かすを入れたうどんを「たぬきうどん」と言うように、天かすを混ぜたおにぎりを「たぬきおにぎり」と言うようです。悪魔のおにぎりの正体です。よく売れたそうです。名前の付け方がうまかったということでしょう。同じ商品でも、名前の付け方によって売れたり、売れなかったりするのです。言葉の使い方が売り上げに大きく影響するのですから、あるものごとをどう呼ぶかは、私たちの判断に大きな影響を与えると考えられるのです。

身近で用いられる言葉に注目してみることも大切です。